

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第4回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部において、
 - ①若手の医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
 - ②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2015年6月25日（木） 16:50～18:40（途中入退場可）
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・教養学部理科三類学生（いずれも男女不問）
※ 他部局、他機関からの参加も可
5. プログラム：

司会 北中幸子・細谷紀子

16:50 開会挨拶（宮園浩平 医学系研究科長・医学部長、齊藤延人 医学部附属病院長）

16:55 講演① 対馬ルリ子 先生（対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 院長）
「女性にやさしい社会のために
～女性の健康とワークライフバランスの新しい考え方とは～」

17:45 講演② 高野朋子 先生（マギル大学ヘルスセンター 教授）
「カナダ大学病院における医師のキャリアの現状」

18:35 閉会挨拶（佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）
6. 企画・運営：

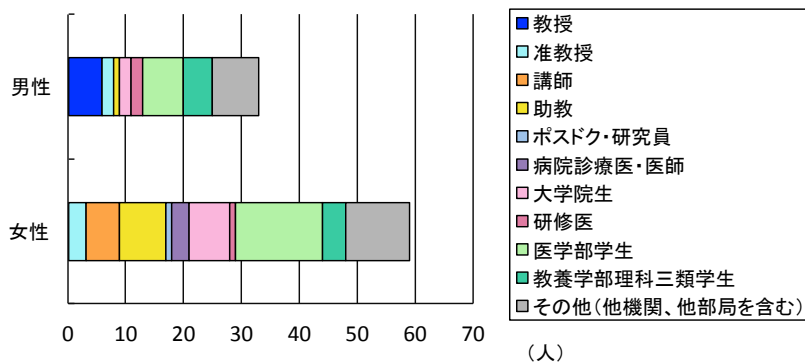
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）
第4回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会
幹事：北中幸子、細谷紀子
委員：飯塚陽子・設楽理恵子・柴田彩・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・本田郁子・増井友里・安岡潤子
M4：高岡真梨子・西村有未
M3：曾根原究人・高岡由梨子・水次弘子
M2：秋山果穂・大西泰地・山口修平
M1：勝又顕正・米田あゆ・頼友梨恵
C2：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり

II. 開催報告

1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

職名（特任、客員を含む）	男性	女性
教授	6	0
准教授	2	3
講師	0	6
助教	1	8
ポスドク・研究員	0	1
病院診療医・医師	0	3
大学院生	2	7
研修医	2	1
医学部学生	7	15
教養学部理科三類学生	5	4
その他（他機関、他部局を含む）	8	11
計	33	59

（人）



2. 当日配布資料

資料1 プログラム（ポスター）

資料2 アンケート用紙

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されており、今回で4回目を迎えた。第1回目～3回目においては、学内の医師・医学研究者6～7名からのキャリアとライフイベントとの調和の事例紹介と情報交換会を行ってきたが、4回目となる今回は、初めて学外から2名の講師をお招きし、これまでとは別の角度からお話をいただくことにより、男女共同参画への理解をより深めることを目指した。

開会にあたり、宮園浩平医学系研究科長・医学部長と齊藤延人医学部附属病院長よりご挨拶をいただいた。宮園研究科長・学部長は、以前にスウェーデンにご留学された時に男女共同参画が社会の隅々まで浸透していることに大変驚き、また勉強になったということを様々なエピソードを交えながら話された。また、医学系研究科・医学部において女性の学生が増えていることが全学的にも注目されており、男女共同参画活動がさらに発展することを期待したい旨の話があった。齊藤病院長からは、団塊世代が後期高齢者になる2025年問題に向けて社会構造を変える動きが出ている中で、病院としては、病児保育を導入したり、病院診療医（短時間勤務・フレックスタイム制）の雇用形態を設けたりするなど、女性がキャリアを継続できるような体制作りに取り組んでいる旨の紹介があった。

続いて、演者の先生方2名の講演が行われた。

最初の講演では、対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座院長で産婦人科医の対馬ルリ子先生から、「女性にやさしい社会のために～女性の健康とワークライフバランスの新しい考え方とは～」というタイトルでお話いただいた。現代は、女性の寿命が延び、出産が高年化するなど、ライフスタイルが変わり、各年代での健康リスクも様変わりしている。特に女性の場合、ホルモンの変動の影響を受けやすく、女性特有の疾患や障害を生じやすいことをよく理解して、自己管理することで、自信をもって活躍できることを具体的にお伝えいただいた。検診はもちろん、低用量ピ

ルやホルモン補充療法などを上手に使う選択肢があることについて知っておくことも自己管理に役立つ。対馬先生は、医学部卒業後の16年間は、東大病院をはじめ、産婦人科医療の最前線でご活躍され、その後の15年間は、従来の診療科別医療ではなく、女性の健康を包括的に支援する女性外来を立ち上げ、推進されている。結婚、子育てをしながらも働き続けてきたことが今につながっており、どのようなキャリアであっても辞めないで継続していくことの大切さを教えていただいた。現代では先進国の女性の就業率と出生率は正の相関をするが、日本ではともに低い。また、日本のジェンダーギャップ指数は136国中104位であり、他国と比べて男女格差が大きい。この格差を是正するための措置としてアフーマティブ・アクションがあるが、現時点でわが国の男女のキャリアは異なる。今後さらに、育児ブランクを短縮する、男性の意識を変える、男性も負担を分かち合うことが求められる段階になってきている。女性が健康で生き生きとしていくことが、家庭や社会全体の健康にも結びついていくこと、女性と男性がどう違うかが分かると、どちらも生きやすくなるという男女共同参画を実現していく上で根源的に大切なメッセージをいただいた。質疑では、「低用量ピルの服用を普及する上での障害は何か？」についての質問があり、日本では病院で医師が処方する必要がある、そのために受診しなければならないことが障壁となっており、既に普及している国にあるようなアクセスしやすいヘルスケアシステムが必要であるという回答いただいた。

2つ目の講演では、マギル大学ヘルスセンター教授の高野朋子先生より、「カナダ大学病院における医師のキャリア形成の現状」というタイトルでお話いただいた。約20年間カナダで腎臓内科医、医学研究者としてキャリアを積まれた経験を基に、カナダにおける腎臓内科医のキャリアパス、アカデミックメディスンの3本柱「研究・教育・臨床」、勤務評定と昇進や報酬のシステムについての現状をお話いただいた。研究においては、「protected time」（臨床・教育・その他の義務がなく、研究に専念できる時間）が重要であり、マギル大学では、基礎研究者の場合は75%、臨床研究者の場合でも50～75%確保されているとのことであった。カナダでは、assistant professorとして採用されると独立した研究室主催者(PI)となれる。初めの3年程度は大学・研究機関から研究費が保証されるものの、その後は、グラントを複数取り続けないと研究を継続するのは困難であるという厳しい面も紹介された。給与面では、基礎研究者が臨床研究者に比べて極端に不利にならないように工夫された報酬制度があり、また、メンター制度が義務化されており、キャリアアドバイスをいつでも受けられる状態にあるとのことであった。教育においては、教員側も学生や研修医から評価を受けることが重視されており、研修医教育においては、国からも7年に一度厳しいプログラム認定を受けており、その要求を満たすために膨大なエネルギーが費やされていることが紹介された。臨床においては、カナダでは、医師の責任範囲がはっきりしているため、医師以外の医療従事者の仕事の代行をすることは殆どないこと、また、時間限定での責任所在がはっきりしているため、時間外の仕事も来ないとのことであった。高野先生は、北米におけるキャリア形成の上で、出産したこと以外に性差を感じたことは一度もないそうである。その理由として、カンファレンスが必ず8時から17時半の間に行われるなど、常識的な勤務時間内で業務が達成できるような仕組みが確立されていること、さらに、個人が尊重され、プライベート（出産・育児、病気など）の事情に対してフレキシブルな対応が自然に行われていることを挙げられた。質疑では、カナダの女性医師の産後休暇の現状、教育における相互評価システムのあり方、メディカルスタッフとの情報共有・連携の状況についてなど、多くの質問が出た。

閉会にあたり、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、講演いただいた対馬ルリ子先生と高野朋子先生への謝辞が述べられた。また、日本では男女共同参画が遅れているため、さらに活動を推進していかなければならない旨の決意が述べられた。

III. 参加者アンケートの集計結果

回収数：59 件（回収率 64.1%）

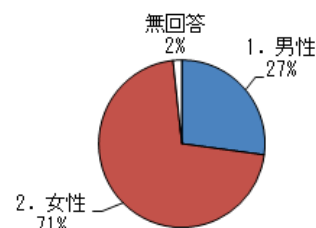
回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

< 基本情報 >

A 1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	16	27
2. 女性	42	71
無回答	1	2
計	59	

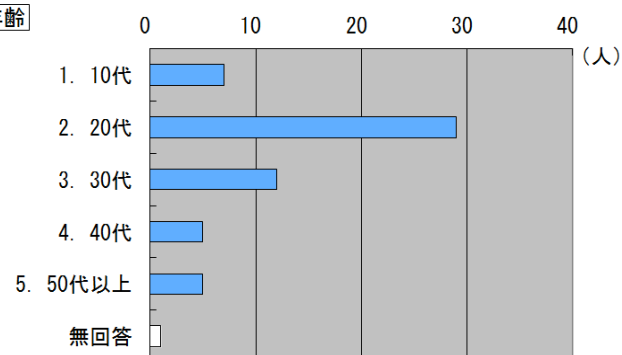
性別



A 2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	7	11.9
2. 20代	29	49.2
3. 30代	12	20.3
4. 40代	5	8.5
5. 50代以上	5	8.5
無回答	1	1.7
計	59	

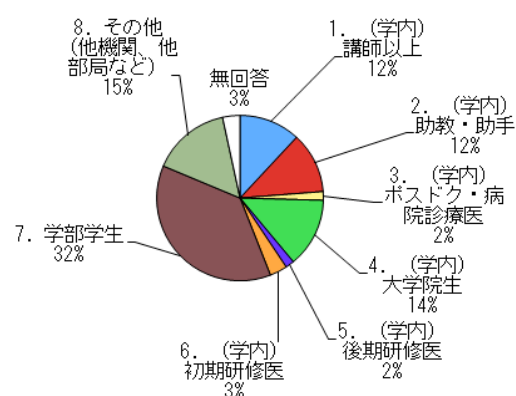
年齢



A 3) 職種・職位（特任・客員を含む）

職種・職位	n	(%)
1. 学内) 講師以上	7	11.9
2. 学内) 助教・助手	7	11.9
3. 学内) ポスドク・病院診療医	1	1.7
4. 学内) 大学院生	8	13.6
5. 学内) 後期研修医	1	1.7
6. 学内) 前期研修医	2	3.4
7. 学内) 学部学生	22	37.3
8. その他 他機関、他部局など	9	15.3
無回答	2	3.4
計	59	

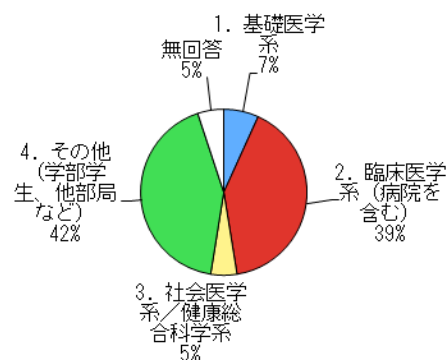
職種・職位



A 4) 所属

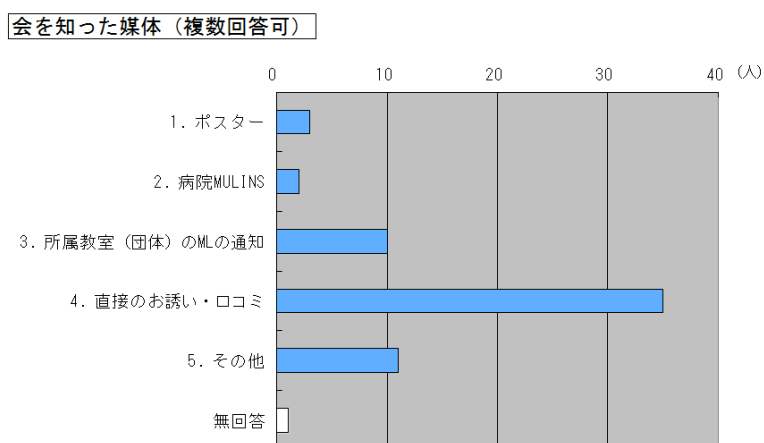
所属	n	(%)
1. 基礎医学系	4	6.8
2. 臨床医学系 (病院を含む)	24	40.7
3. 社会医学系／健康総合科学系	3	5.1
4. その他 (学部学生、他部局など)	25	42.4
無回答	3	5.1
計	59	

所属



A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)

会を知った媒体 (複数回答可)	n	(%)
1. ポスター	3	4.8
2. 病院MULINS	2	3.2
3. 所属教室 (団体) のMLの通知	10	16.1
4. 直接のお誘い・口コミ	35	56.5
5. その他	11	17.7
無回答	1	1.6
計	62	

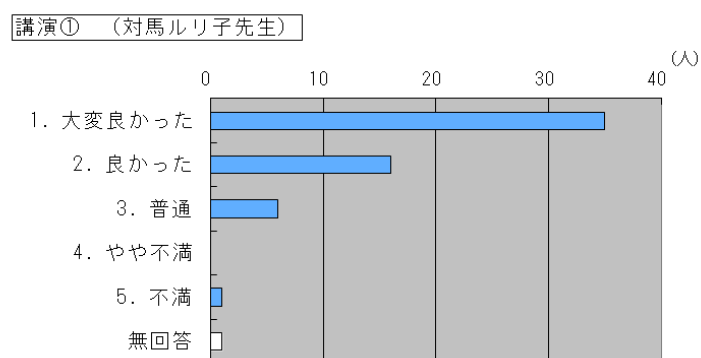


< 今回の企画の感想について >

B1) 講演① 対馬ルリ子先生の御講演

「女性にやさしい社会・会社のために
～女性の健康とワークライフバランスの
新しい考え方とは～」について

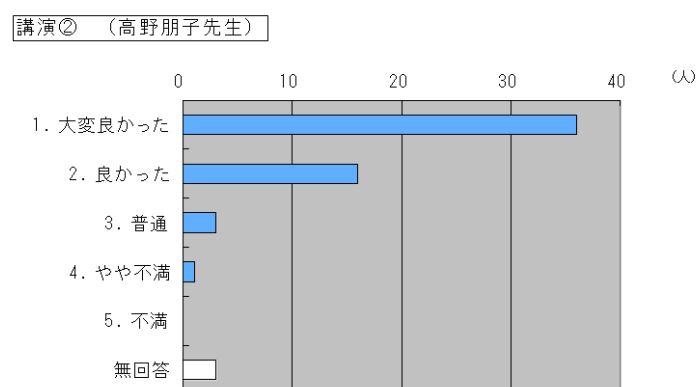
講演① (対馬ルリ子先生)	n	(%)
1. 大変良かった	35	59.3
2. 良かった	16	27.1
3. 普通	6	10.2
4. やや不満	0	0.0
5. 不満	1	1.7
無回答	1	1.7
計	59	



B2) 講演② 高野朋子先生の御講演

「カナダ大学病院における医師のキャリアの
現状」について

講演② (高野朋子 先生)	n	(%)
1. 大変良かった	36	61.0
2. 良かった	16	27.1
3. 普通	3	5.1
4. やや不満	1	1.7
5. 不満	0	0.0
無回答	3	5.1
計	59	



B3) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

講演全体に関するコメント：

- ・ 包括的な女性医療の将来の方向性について、日本の目指すべきところを知ることができたこと、カナダにおける医師のキャリアパスについて全体的な像をみることができ、先生ご自身のご経験を踏まえたお話を聞くことができたことが大変有意義で勉強になった。
- ・ 大変 encouraging だった。子供を2人育てながらフルタイムで働いていることにもっと自信を持ちたいと思えた。
- ・ それぞれの分野の第一線で御活躍されながら家庭人としても充実した人生を送っているお二人のお話を聞くことができて、そのパワーにとっても感動を受けた。自分もその後に続きたい。
- ・ お二人の先生から違った視点でのキャリアのお話を伺うことができとても勉強になった。
- ・ 二人ともわかりやすい内容で素晴らしかった。
- ・ このような話を聞く機会が普段ないのでとてもよかった。
- ・ 大変参考になるお話、ありがとうございました。
- ・ とてもためになった。ありがとうございました。
- ・ とても参考になった。

対馬ルリ子先生のご講演について：

- ・ 対馬先生のお話は「浅く広い」感がありましたが、その分、学部学生にもとつきやすかった。

高野朋子先生のご講演について：

- ・ カナダ大学病院のキャリアといった普段なら聞くことのできない現場で活躍する方のお話が聞けて良かった。
- ・ カナダにおいて教育に限らず各方面への貢献に対する評価がしっかりしていてよい。
- ・ 北米の医師のキャリアについて知れてよかった。
- ・ カナダと日本において医師のキャリアが全然違うことに驚いた。
- ・ 高野先生のお話を聞いて日本の考え方はまだまだ古いなと思いました。女性でも堂々とキャリアアップを考えていいんだなと思った。
- ・ 日本と比べてカナダでは少ない人数で臨床を回せているので、研究に多くの力をかけているという点がとても参考になると思った。

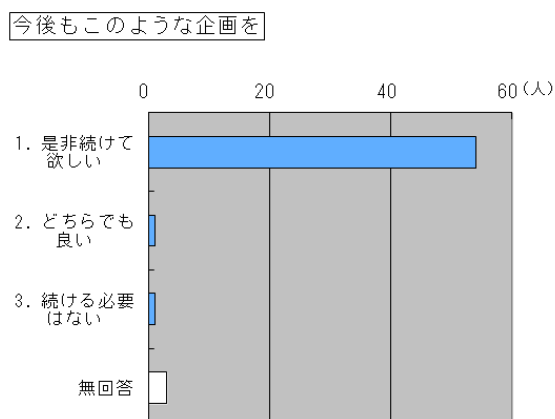
今後の課題：

- ・ 話が具体的過ぎて、いまいちメッセージが伝わらなかった。
- ・ 仕事と家庭をどう両立させたか、どのような選択をしたのかを伺いたかった。
- ・ 非常に興味深い話だが、男女共同参画の問題点がもう少し浮き彫りになると良かった。
- ・ 座談会(パネルディスカッション)があると良いと思った。
- ・ 男性にとってもさらに魅力あるトピックになるといいなと思う。
- ・ 配布資料を頂きたかった。

- ・ 会場で写真を撮っているスタッフと思われる方が多すぎて(特に初めの方)落ち着かなかった。
- ・ とても素晴らしい講演だった。通常身の回りにいるような方ではないので新鮮な世界が見られてよかった。しかし、企画全体として、本セミナー(あえて交流会でなく”セミナー”と呼びます)のメインターゲットは誰で、何を伝えたいのでしょうか。対象が学生だけであるなら講義で十分と思う。高名な先生の話聞くだけでは「セミナー」である。先生に対して1個2個質問の受け付けるのは「交流会」と呼べない。「交流会」ならもっと自由に discussion できる会の内容が良いでしょう。島を6つ程度作って様々な年齢キャリアの人が持っている問題点、疑問点などをオープンに話して現在の問題とその対応策を講じてそれを最後に発表してまとめる。これらをして初めて開催した意義があるのではないのでしょうか。1人2人の話を年に1回拝聴することで何の支援に具体的になるのでしょうか。この会の形式を継続するのなら「キャリア支援のための交流会」という表題は変更されるのが適切でしょう。会全体の目的・意義とは別にして、お二方のレクチャーはとても素晴らしかった。

B4) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	54	91.5
2. どちらでも良い	1	1.7
3. 続ける必要はない	1	1.7
無回答	3	5.1
計	59	



B5) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望 (自由回答)

交流会の継続のご要望：

- ・ なかなかセッティングが大変かもしれないが、多角的な視野を持てる素晴らしい交流会なので、ぜひこの交流会を続けてほしい。
- ・ 今後もこのような機会が多く設けられることを願っている。
- ・ もっといろいろなお話が聞きたく半年に1回等、大きな会を今後開いていただければ、と思った。

今後の交流会の内容、テーマに関するご要望：

- ・ 男女共同参画委員会主催ということあまり知らず、全体として「女性のキャリア」に傾く感があった。そうするなら交流会のタイトル自身を「女性のキャリア支援のための」などのよ

うにすべきだと思う。逆に、今のタイトルを使うならば男女両方のキャリアを示すべきだと思う。その点では、高野先生のお話は大変良かったと思う。

- ・ 院内だけでなく、これからも院外の方々のお話が聞ければいいなと思った。
- ・ 今年から一人当たり長いお話が聞けるようになり、普段聞けないようなことも聞け、有意義でした。今年のスタンスでよいと思った。
- ・ 助教より上のリーダーシップ教育、業績の作り方(時間配分サポートシステム、リーダーの心構え、精神的サポート)、部下、研修医、医学生教育についても聞いてみたい。(部署内に女性一人でロールモデルがない為)
- ・ もう少し学内の問題を取り上げてもいいのでは。
- ・ 講演は聞いたが、交流はできなかった。

交流会の意義・成果に関するご意見：

- ・ 言葉を選ばなければ、この形式の会合を続ける意義は「男女共同参画委員会はちゃんと機能していますよ」と対外的にアピールすることが主目的になっていないでしょうか。男女のワークスタイルの整備のためにこの”交流会”は何か活かしていますか。この交流会のアウトプットはなんですか。
- ・ 会の冒頭で、交流会の成果として病児保育の実現が挙げられていたのは、ちょっと行き過ぎ(アピールし過ぎ) だと思った。

今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見・ご要望：

- ・ 東大が先頭になって日本の医療を変えていってほしいと思いました。他大にも影響を与え全体でよくしようという流れになればと思う。
- ・ 高野先生のご講演にあったカナダの大学での評価システムは非常に印象的であり、東大では今後の課題であると思う。研究業績に加え、教育力、組織への貢献度など、皆から見て納得のいく人が見える形で評価されるということが、若い人にとっての励みになり、研究科も活性化すると思う。正しく努力した人が報われることを願っている。

忌憚のないご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思います。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会